

平成30年度 自己評価表

教育目標	藩校「尚徳館」の「文武併進」の精神を受け継ぎ、高い志を持ち、幅広い教養を身につけ、社会の進歩・発展に貢献する創造性豊かな人間を育成する。	今年度の重点目標	「深い学び」「幅広い学び」による高い進路目標の実現 ・学問の奥深さに触れ、深く学ぶことの喜びを実感できる授業を研究・実践する。 ・「大学進学重点校」として生徒の高い進路目標を実現するための施策を徹底する。 ・生徒の良識を培い、社会性を高めるための指導を推進する。 ・学習と部活動の両立を支援し、スポーツ・文化芸術活動の充実を図る。 ・スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業を組織的に推進する。
中長期目標	1 生徒が学問の意義に目覚め、深く学ぶことの喜びを実感できる質の高い教育を推進する。 2 生徒が確かな学力を身に付け、自己の将来像を描き、進路目標を実現できる教育を推進する。 3 生徒に良識を培い、自律と規範、自立と共生の精神を涵養することによって、社会のリーダーとなる素養を育てる。 4 教科の学習とともに、部活動や学校行事などの体験的活動への積極的参加を通じ、知徳体のバランスのとれた人間の育成を図る。		

評価基準 A:十分達成〔100%〕 B:概ね達成〔80%程度〕 C:変化の兆し〔60%程度〕 D:まだ不十分〔40%程度〕 E:目標・方策の見直し〔30%以下〕

年度当初				評価結果（2月）			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
深く学ぶことの喜びを実感できる授業の研究・実践	○教科の面白さを伝える授業、知的好奇心を刺激する授業を推進する。 ○生徒相互の刺激により、切磋琢磨しつつ成長できる機会を増やす。	○各教科でアクティブラーニングが浸透、図書館との連携も進み、主体的な学びを促す授業実践が積みあがってきている。 ○「思索と表現」をはじめとしたSGH事業への取組により、分析力・考察力が育ちつつあり、互いに議論し、解決方法を提案しようとする姿勢が見受けられる。 ○生徒の知的活動を支援する態勢を整え、積極的に高校生フォーラム、科学の甲子園等の各種大会・コンテストに参加している。	○日常の授業に探究活動を取り入れるなど、学問の奥深さに触れる質の高い授業を展開する。「学習の深まりとともに、自ら学ぶ意欲が高まった」生徒の割合（アンケート）を90%以上に高める。 ○SGH事業を有効に活用し、より多くの生徒が主体的に知的活動に取組むよう、「思索と表現」の内容を充実する。 ○生徒への情報提供を継続し、各種大会・コンテストに積極的に参加するよう支援態勢を強化する。	○自他との対話を通して深い思考に誘う授業を展開するとともに、知の世界の豊かさや深さ、面白さに触れるような授業の研究を進める。 ○「思索と表現」において、生徒の探究学習を深化させ、ループリック等の学習評価指標を改善する。また、探究学習を通して知的好奇心を喚起し、学問の場としての大学への進学の意義や意味について深く考えさせる。 ○知の交流の場として、科学の甲子園、科学オリンピック、科学コンテスト、各種研究発表会等への積極的参加を呼びかけ、サポートしていく。	○多くの教科で対話・探究型学習を実施したり、生徒自身で課題解決させる授業をしたりして、物事を深く考える授業を行った。「学習の深まりとともに、自ら学ぶ意欲が高まった」生徒の割合（アンケート）は81%。 ○「思索と表現」「アデレード大学研修」「SGHセミナー」等のSGHに関わる事業の取組において、グループで議論して社会への関心や問題意識を高め、問題解決を図ろうとする生徒の力の高まりがみられた。 ○海外での研修プログラムに多くの生徒が応募し、積極的に参加している。科学の甲子園、科学オリンピック等、各種大会に参加し良好な成績を収めているが、更に参加者を増やしたい。	B	○教科書から更に踏み込んだり深めたりする内容を多く入れ、学習内容をつなげながら人間観や世界観を深める授業、自ら問題点を発見したり批判したりする授業の在り方について、引き続き研究する。 ○到達点がわかるようループリックによる評価を進めるとともに、研究成果をより深めるために、探究活動の提示や、取組過程の工夫など、次年度の実施に向けて検討を進める。 ○生徒が参加した大会や研究会での内容を還元する機会を増やし、生徒同士が刺激し合えるように支援するとともに、継続的に声かけをする。
高い進路目標を実現するための施策の徹底	○協同的・探究的な学びの研究と実践に取組む。 ○高い進路目標に向かう姿勢と態度を育むための取組を充実させる。	○教科指導を中心に各種研修会・学会等に参加し、研究授業も行って指導力の向上に努めるとともに、協同的・探究的な手法を取り入れた授業実践を積み上げ、主体的・自律的な学びを促している。 ○きめ細やかな面接指導や自宅学習の状況の把握を通して、生徒の学習意欲の向上や進路意識の育成に努めている。	○各種研究会・学会等に参加して得た成果を確実にフィードバックし、教科全体の指導力向上につなげる。「授業を受けて科目への興味・関心が高くなった」生徒の割合（アンケート）を80%以上に高める。 ○学習到達目標の共有、対話により内容を深める授業の実践を通して、主体的に取組む生徒を育成する。 ○教科横断的な指導の研究と実践に取組む。 ○3年間を見通した進路指導シラバスに基づいた、きめ細かな指導により生徒の学習意欲を引き出し、高い進路目標を持ち自律的に学習に取組む生徒を育成する。	○学習理論、教科教育研究等の各種研修会や学会などの成果を共有して授業の充実を図り、生徒の進路目標の実現に努める。 ○教科の本質を学ぶための優れた入試問題の研究を通して、学年到達目標・短期到達目標を設定し、教員間で共有することで指導の改善につなげる。考査期間中は全校で考査に集中する。 ○教科間での情報交換を促進することで、他教科と連携した教材の研究開発を充実させる。 ○進路志望調査、自宅学習調査を活用しつつ面接指導を充実させ、生徒各自の志望を掘り下げ、適切な目標設定を支援し、進路意識・学習意欲を向上させる。	○各種研修会に積極的に参加して学習理論や指導法について研究し、その成果を共有し、日々の授業実践に取り入れている。「授業を受けて科目への興味・関心が高くなった」生徒の割合（アンケート）は79%、前期よりも2%増えた。 ○入試問題を教科で研究するとともに、各学年における目標設定をする際の一助とし、互いの授業を参観し合いながら、生徒の能力を引き出す授業の在り方について研究した。 ○教科・科目横断的な指導の研究を進め、実際に公開授業でも取り入れるなどして実践を重ねた。 ○自宅時間調査の結果を活用して面談指導を行い、生徒の進路意識や現状を確認して、学習意欲の向上に努めている。	B	○引き続きICTの活用や学習科学に基づいた授業を実践し、その成果を教科内で共有する。今後も各種研修会に参加し、学習理論や指導法を学び授業の工夫をする。 ○入試問題研究をすすめていくとともに、授業、授業展開を研究していく。 ○年間カリキュラム一覧表を活用しながら、効果的な他教科との連携について研究を進める。 ○自宅時間調査や授業アンケートの結果を教科で共有し、学習指導に生かす。また、学年で面談のテーマについて共有を図り、効果的な面談指導を行う。
良識を培い、社会性を高めるための指導の推進	○良識を培い、社会性を高める取組を推進する。 ○他者と積極的にかかわる豊かな人間関係づくりを推進する。	○職員の共通理解に基づいた指導により、生徒は節度と良識ある学校生活ができています。あいさつ運動や部活動、各種行事の取組を通して、多くの生徒が規則を守り、落ち着いた学校生活を送っている。 ○SGH事業での縦割り活動や学校行事、学級活動など様々な場面で、学びや気づきを促す活動を通じて多様で健全なものの考え方を育み、豊かな人間関係を築いてきている。さらに、学年を超えた自主的活動や集団活動の一層の活性化が望まれる。	○節度と良識を持ち、多様な人間関係づくりのできる感性豊かな人材を育成する。「規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」生徒の割合（アンケート）を90%以上に高める。 ○心身の健康を適切に管理・改善していく力を育成する。 ○SGH事業の「思索と表現」や海外交流、校内外の各種行事などの多様な活動への参加を通じて、リーダーとしての資質やコミュニケーション能力を育てる。	○規則の意味を理解し、挨拶を励行するなど、マナーを身につけた生活ができるよう促す。また、高度情報化社会で身につけておくべき情報モラルを基本的な生活習慣とともに身につけさせる。 ○健康教育の場として、保健室の役割を充実させるとともに、教育相談室や保健室と学年との連携の充実、面談やhyper-QUアンケートの活用により生徒理解を深め、個に応じた相談活動を行う。 ○ペアワークやグループワークを通して、他者との関わりを重視し、多様な考え方や出会いながら思考力や想像力、表現力を高めていく教材や授業のあり方について継続的に研究し、コミュニケーション能力を養成する。	○多くの生徒が節度と良識を持って学校生活を送っているが、交通ルールやマナーについては継続的な指導が必要である。生徒会執行部を中心にあいさつ運動を行って成果を挙げている。「規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」生徒の割合（アンケート）は88%。 ○学年と教育相談、保健室とが連携を取りながら、個々の生徒の状況把握に努め、迅速な面接や保護者との連携を図った。 ○グループ学習の機会を確保して言語活動の充実を図り、学びや気づきを促す活動を実践する中で、他者と積極的にかかわる人間関係作りを進めた。	B	○今年度、比較的多かった自転車事故、また交通ルールマナー等の指摘について注意喚起を行う。 ○保健室、教育相談室、学年や保護者との連携を密に行い生徒の変化を見逃さないよう関わる。年度をまたいだ情報共有の精度を上げるために、情報集約の仕方を検討する。 ○多様な他者と関わり、他者と協働しながら感性を豊かにする授業の在り方について、引き続き研究する。
学習と部活動の両立と、スポーツ・文化芸術活動の充実	○全員が学習と部活動を両立できるための指導を推進し、環境を整える。 ○スポーツ・文化芸術活動の充実を図り、幅広い教養を身につけた豊かな人間形成をめざす。	○多くの生徒が積極的に部活動に参加しており、学習と部活動の相乗効果が高まるような一層の工夫が必要である。 ○教科学習や部活動において芸術文化活動に積極的に取り組んでいる。また、図書館活動において、芸術・文化活動に触れ、情報発信することで学校の活性化を図っている。	○部活動休養日を設定し、部活動の在り方を見直す。 ○学習と部活動の両立を図り、部活動や学校行事を通じて、心身を鍛え、バランスのとれた豊かな感性を育成する。「学習と部活動の両立ができています」生徒の割合（アンケート）を80%以上に高める。 ○芸術における創作・鑑賞活動を通じて、豊かな感性と創造的な表現力、芸術活動への意欲・関心を育てる。また、多様な文化活動に積極的に参加する生徒を育成する。	○各部において技術の向上のみならず、心身の健康な成長を支援するため、部活動休養日を設定し、生徒が主体的に家庭や地域での生活のあり方を考えるよう働きかける。 ○各部顧問が生徒の学校生活全般における実態把握に努め、学年と部顧問とが連携して、学習への取組が滞りなく行われるよう指導していく。 ○総合的な学習の時間や西高祭などの機会の活用、県立博物館で開催される展覧会の授業での利用や学芸員との連携により、多様な芸術文化に触れる機会を増やすことで、感性を養うとともに表現能力を高める。	○部活動休養日の設定により、生徒が主体的に生活のあり方を考えられるようにしてきた。運動部文化部ともに多くの部活動が上位大会への進出を果たしている。 ○生徒は学習と部活動との両立によく努力した。必要に応じて部顧問との連携を図り、学習習慣の改善が見られた。「学習と部活動の両立ができています」生徒の割合（アンケート）は77%。 ○芸術講演会、県立博物館での展覧会の活用等、多様な芸術文化に触れる機会を設けた。	B	○部室利用や部活動時間の厳守を一層徹底するとともに、来年度より実施される部活動計画を活用し、効率の良い指導方法を研究する。 ○部顧問、保護者、学年団等の連携をさらに密にして、個々の生徒に応じた支援を行う。 ○芸術鑑賞会や芸術講演会など多様な芸術文化に触れる機会を企画する。